

社会福祉法人 泰斗 令和元年度 事業報告

「全体」

施設長 魚谷康洋

社会福祉法人泰斗の初めての事業であるくぬぎ荘は令和2年3月でちょうど2年半を迎えた。入居者については、昨年度より入院者及び退居者数が少なく、平成30年度に比べ入居者の健康面で落ち着いた1年であった。平成30年度は待機者が少ない状況であるにも関わらず、退居者が10名おり、入居申込から入居までの期間がほとんどなく次から次に入居者を受け入れる状況で、待機者がいない時期もあった。令和元年度は退居者5名と少なく、入居申込も増えてきており、待機者も徐々に増えた。

令和元年度の看取り介護は1名であったが、これまでの看取り介護の経験を活かし入居者本人及びご家族の希望を尊重したケアを行った。入居者本人の認知症が軽度であり、意思表示をしっかりと行える状態であったため、本人が食事摂取や輸血を拒否があり、その気持ちを尊重した看取り介護であった。家族は本人の気持ちを重視したいとの気持ちは固いものがあつたが、それでも一日でも長く生きてほしいという気持ちとの間で悩まれていた。毎日面会に来られていたため、日々のコミュニケーションを通して心理的な負担を軽減できるように努力し、穏やかな最期を迎えることができた。

職員については介護職員11名中(パート含む)のうち国家資格である介護福祉士を有していない者は1名。残りは全員有資格者。介護職員の経験年数では5年未満の者はおらず、5年以上10年未満8名、10年以上が3名と他施設に比べ、有資格者数と平均経験年数は高い。

定員29名中、25名まで入居者を伸ばすことができた。あと4名で満床であるが、その為には7時00分から22時00分まで曜日関係なく勤務できる介護職員があと数名必要で、そこまでの人員が確保できなかった。

日々の介護業務を遂行する為に、週40時間労働では職員不在の時間帯が生じた時期は、残業もしくはシフト時間より早く出勤し、業務にあたる等の超過勤務でしのいだ。令和元年度の超過勤務合計は440時間(平成30年度631時間)、月平均36.7時間(平成30年度52.6時間)昨年度より超過勤務は減少した。最高は平成31年4月の97時間30分。最低は7月の1時間。人件費は総支出の55%と他法人に比べるとかなり低い数字となった。

人員不足を理由に休日出勤するまでには至らず、正職員全員公休数110日は確実に消化できた。又、4月より始まった有給休暇の5日間の消化義務についても100%達成できた。しかし、食事、入浴、排せつといった三大身体介護をこなすのが精一杯の状況で、外出行事や施設内のイベント開催については、不十分な点があり、入居者の余暇の充実に繋がる試みを実践するまでは至らず、地域の行事等への参加も出来ず、次年度への課題が残った。